

令和3年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名：岐阜聖徳学園大学

1. 事業の実績

(1) 事業目的

平成31年1月に実施された文部科学省初等中等教育局幼児教育課の幼稚園教諭免許状の上進希望調査によれば、岐阜県内には80名程度の潜在的な上進ニーズがあることが分かっている。しかし、令和元年度及び令和2年度の岐阜県内における幼稚園教諭の上進に係る免許法認定講習実施は、岐阜県教育委員会において1科目1単位の実施に留まっていることや教育職員免許法別表第3による幼稚園教諭二種免許状からの上進希望者が平成30年度は5名、令和元年度は2名となっていることから、岐阜県では上進希望者に対して十分な受講機会が確保されているとは言い難い。

本事業は、本学の教育機能を活用して幼稚園教諭一種免許状の取得機会を提供することにより、幼稚園教諭の専門性向上に資することを目的とする。

(2) 事業概要

本事業では、幼稚園教諭二種免許状を有し、幼稚園教諭（幼保連携型認定こども園保育教諭を含む。）としての在職期間が12年以上（教育職員免許法別表第3による在職年数12年以上）の現職教員を対象として、幼稚園教諭一種免許状への上進に必要な単位10単位分を2年間（令和3年度5単位、令和4年度5単位開設予定）で取得できるように講習を開設した。

○実施日程

実施時期	活動の内容		
	実施内容	評価	検討委員会
令和3年1月下旬～	広報用チラシの送付(申請予定)	—	—
令和3年4月1日～23日	受講者募集	—	—
令和3年5月11日	受講者決定	—	—
令和3年6月26日・7月3日	○講習1 幼児と健康	—	—
令和3年8月5日・6日	○講習2 特別支援教育	—	—
令和3年8月16日・17日・19日	○講習3 幼児理解	—	—
令和3年8月23日・24日	○講習4 教育の方法と技術	—	—
令和3年10月1日	単位修得証明書 発送	—	—
令和3年10月26日	幼稚園認定講習検討特別委員会開催	講習評価アンケート結果に基づいた評価	満足度評価内容等を受けて来年度に向けた講習内容等の検証
令和3年12月1日	教員養成カリキュラム委員会開催	幼稚園認定講習検討特別委員会での検討結果を評価	幼稚園認定講習検討特別委員会での検討内容を改善に結び付ける

令和4年3月上旬	事業結果報告	—	—
----------	--------	---	---

(3) 成果（事業の実績の説明）

本学では、幼稚園教諭二種免許状を有し、幼稚園教諭（幼保連携型認定こども園保育教諭を含む。）としての在職期間が12年以上（教育職員免許法別表第3による在職年数12年以上）の現職教員が、幼稚園教諭一種免許状への上進に必要な単位10単位のうち、5単位を1年間で取得できるよう開設した。令和3年度は4講座（5単位）を開設し、現職教員が受講しやすいよう、6月～7月に実施する講習は土曜日開講、8月に実施する講習は夏休み期間を利用した平日開講とした。受講料は1単位につき5,000円を徴収した。なお、授業は全講習対面で実施した。

○開講日程・開講科目名・受講者数・上進者数

No.	開講日程	開講科目名	授与 単位	免許法施行規則に定める科目区分等		受講 者数	上進 者数
				科目	各科目に含める必要事項		
1	令和3年6月26日(土) 令和3年7月3日(土)	幼児と健康	1	教科	健康	20名 (注1)	4 (注2)
2	令和3年8月5日(木) 令和3年8月6日(金)	特別支援教育	1	教職	特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	16名 (注1)	
3	令和3年8月16日(月) 令和3年8月17日(火) 令和3年8月19日(木) 令和3年8月20日(金)	幼児理解	2	教職	幼児理解の理論及び方法	20名 (注1)	
4	令和3年8月23日(月) 令和3年8月24日(火)	教育の方法と技術	1	教職	教育の方法及び技術 (情報機器及び教科の活用を含む。)	19名 (注1)	

(注1) 受講者数は、単位取得者数と同数

(注2) 上進者数は、「学力に関する証明書」発行者数

各講習においては、受講者定員30名のところ16名から20名の受講者数であった。広報を行うにあたっては、岐阜市教育委員会や岐阜県私立幼稚園連合会と連携し、岐阜県内すべての幼稚園や認定こども園等に広報を行った。受講者数が定員を下回った要因として、チラシの郵送等のみでは、上進を考えている幼稚園教諭二種免許状保有者すべてに広報ができないことが考えられる。

講習内容は、岐阜県から示されている岐阜県幼児教育アクションプランに基づき、岐阜県が目指す幼児教育を踏まえている。特に特別な支援を必要とする幼児に関する内容については、チームサポートや多職種連携（幼小連携含む。）を進めながら組織的に対応していくことができる知識や支援方法を理解するようになっている。新型コロナウイルス感染症禍ではあるが、少

しでも他園の受講者と情報交換ができるよう、アクリル板の使用や身体的距離を確保した座席配置等の感染症防止対策を実施した上で、各講習においてグループワークを取り入れた。

受講者アンケートからも「他園の先生とのディスカッション・グループワークは自分にとってプラスとなった」といった意見が多数あったことから、他園の先生方との交流の機会を求めていることが伺えた。

○開設科目の概要

No.	開設科目名	科目の概要
1	幼児と健康	<p>領域「健康」の指導に関する、幼児期における健康の意義、心身の発育発達の特徴、基本的な生活習慣や安全な生活の捉え方、身体活動と運動発達や心理社会的発達の関係、安全な生活と怪我の予防などの専門的事項について解説する。</p> <p>子どもたちの生活や発育、体力・運動能力に関する資料等から、幼児期における身体諸機能の発達や基本的な生活習慣形成の現状、心身の健全な発育発達に向けた運動指導のあり方などについて学び、それらの課題を考える機会を設ける。</p>
2	教育の方法と技術	<p>幼児の活動に関して、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するのに必要な教育の方法を理解し、教育の目的に適したデジタル教材の活用や指導技術について解説する。</p> <p>育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方を理解し、子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示する方法を紹介する。</p> <p>保育活動の中で、子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法を解説する。</p>
3	幼児理解	<p>幼稚園教育の基本となる「幼児理解」の意義や幼児の姿の捉え方、理解を深めるための基礎的な態度について解説する。観察と記録の意義や目的、目的に応じた方法について考えた上で、記録にもとづく保育カンファレンスを実施する。保育現場での具体的な事例をもとに、幼児の発達や学びを考察することを通して、自らの幼児に対するまなざしを振り返り、個と集団の関係や幼児のつまずきの背景にあるもの、保護者とのかかわり等について考える機会を設ける。</p>
4	特別支援教育	<p>どの学級にも在籍している発達障害や疾患等を有する幼児が様々な困難さを感じながら生活している。関わる保育者は、一人一人が抱える困難さとその背景や要因を十分分析し、理解に努める必要がある。そこで、幼児一人一人の実態やニーズをふまえた環境構成のあり方や、必要な合理的配慮を検討する中で、どの幼児も、できた、わかった、がんばったと実感や達成感が持てるよう、チームサポートや多職種連携を進めながら組織的に対応していくことができる知識や支援方法を理解する。</p>

受講者アンケートの結果から、授業の総合的な満足度について「満足」、「やや満足」と回答した受講者が9割を超えている。このことから、全体を通して受講者の求める講習を提供すること

ができたと考える。

(4) 今後の課題・展望

講習については、受講希望者が受講しやすいよう、土曜日もしくは夏休み期間中の平日に開講したが、受講者アンケートの結果から、「土曜日での開講を希望する」と回答した割合が82%と高かった。また、幼稚園教諭免許法認定講習検討特別委員会において、「夏休み期間中の平日は勤務があるため受講しづらい」との意見があった。このことから、令和4年度の講習日程については、可能な限り、土曜日で開講できるよう、検討していきたい。

教育方法については、「グループワーク・ディスカッションを重視して欲しい」と回答する割合が53%と高かった。また、「E-ラーニングによる授業を希望する」と回答した割合については、一定割合はいるものの、「パソコンの扱い方に自信がない」と回答している受講者もいた。このことから、講習を展開するにあたっては、今後も受講者同士の交流を促すことができるグループワークやディスカッションを取り入れるよう検討したい。E-ラーニングを用いた授業については、令和4年度に一部導入することができるよう実施方法を慎重に検討していきたいと考える。